

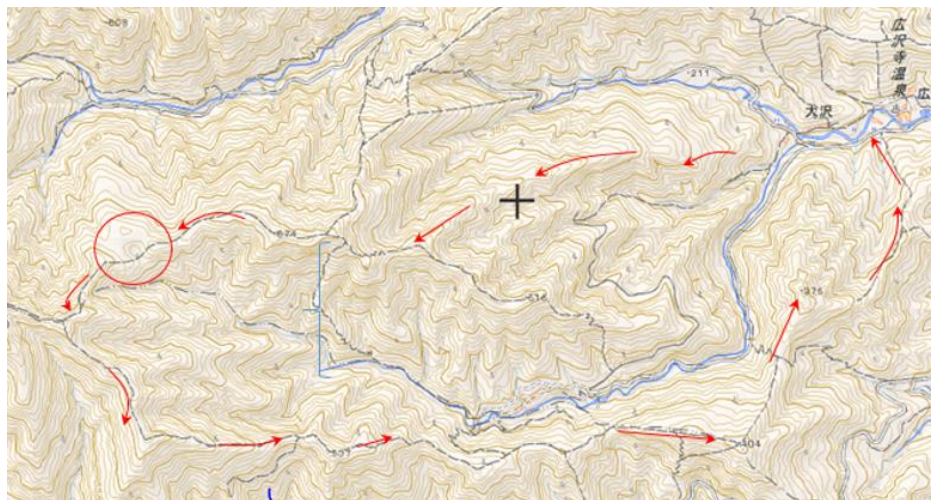
地図照合山行 丹沢：広沢寺周辺の藪尾根

- ◆日程 2018年11月23日(金)
- ◆メンバー L：小林(義)、大塚、今、小濱、西山、今井、山田(留)、岡村、篠原、日比野、須田(健)
- ◆天候 晴れ

地図読み山行との単語が一般的に使われるが山で地図を読んでも何の役にも立たない。家で事前に行なければならない事である。山では縮尺された2次元の紙と実物大の3次元の自然、両方を照合させなければならないのである。10月の机上講習では時間の制約もあり説明に走ってしまった。そして具体的に解らない、との意見も聞いた。机上講習の実体験版としてこの山行を計画した。参加者には10の設定問を事前に考えて頂いた。

登山道のある道でも出かける前に地図を読む、現地では地図と自然を照合する、「あれ、こんな急坂あったけ?」「あの格好いい山は?」「進む方向は間違いない?」不思議に思ったら歩みを止め地図で確認、これを常日頃

やると山の楽しみが更に広がるのだと思う。3名の方から頂いたコメントでも同じことに言及している。地図と照合する事は難しい。私も今だに出来ない。でも、本当に2.5万図は良く出来ていて「すご〜イ」と思う。見ていると自分なりのコースが出来る。(記：小林)



CT：駐車場 9:00 - 570m 昼食 11:25/12:00 - すりばち広場 13:12 - 537m 標高点
14:29/14:36-日向山 15:35 - 駐車場 16:25

(今井) ここ数年はお気に入りの山に何回も行く事が増え、主にコースタイムを確認するために地図を広げていました。参加して、1/25000 地図から判ることの多さや山を立体的に捉えることを学びました。歩き馴れたコースも初めての山も、1/25000 地図を持ちながら歩く事で、より深くその山を知ることができると思いましたので、これを機会にやってみようと思います。

(西山) 地図読みは現在地の確認が大前提であることがよくわかった。Km という単位は感覚としてあるが、25m とか 100m の物差しを自分のなかに作っていきたい。落ち葉の多い場所やザレ場が苦手だったが、「顎を引き重心を真上にする」だけで、上りも下りも滑りにくくなり目からうろこであった。

(小濱) 地図読み山行に参加させていただきました。尾根の形、沢の流れ方、ただ風景を眺めるのではなく、情報として得るためには必要な視点を教えていただきました。頭で分かった気でも使いこなすのはとても難しそうだとも思いましたが、地図を読むことで広がる世界を思うと、これからの山歩きに楽しみが一つ加わったように感じています。そして秋の藪尾根を藪漕ぎも無く気持ちのいい尾根歩きを満喫しました。